

●日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）4 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

- ・ 三宅島 : 12 日にごく小規模な噴火が発生した。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2004 年秋以降、日量 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。
- ・ 阿蘇山 : 14 日にごく小規模な噴火が発生した。同日火山活動度レベルを 2（やや活発な火山活動）から 3（小規模噴火の可能性）に変更した。湯だまりの高温状態が継続する等、期間を通して浅部の熱的な活動が活発であった。
- ・ 桜島 : ごく小規模な噴火は発生したが、爆発的噴火等¹⁾は発生しなかった。A 型地震のやや多い状態が続いている。
1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定の規模以上の噴火の回数を桜島の噴火の回数として計数している。今期間及び前期間はこれらに該当する噴火は観測されなかった。
- ・ 諏訪之瀬島 : 噴火が 4～6 日、8 日、23 日及び 25～27 日に発生した。

【活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山】

- ・ 雌阿寒岳 : ポンマチネシリ 96-1 火口の高温状態が続いていたと推定される。
- ・ 十勝岳 : 62-2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていたと推定される。
- ・ 樽前山 : A 火口及び B 噴気孔群の高温状態が続いていたと推定される。
- ・ 浅間山 : 噴火は発生しなかったが、微弱な火映が頻繁に観測された。
- ・ 霧島山 : 御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。
- ・ 口永良部島 : 火山性地震のやや多い状態が続いている。
- ・ 硫黄島 : 白色の噴煙が確認された。

以下、各々の火山の主な活動について解説する。図表その他において、噴火した火山を▲、活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化のあった火山を●、その他記事を掲載した火山を◇、火山活動度レベルを①②等の丸付き数字で表記する。

また、末尾の資料として、期間中に発表した火山情報の一覧表を掲載する。

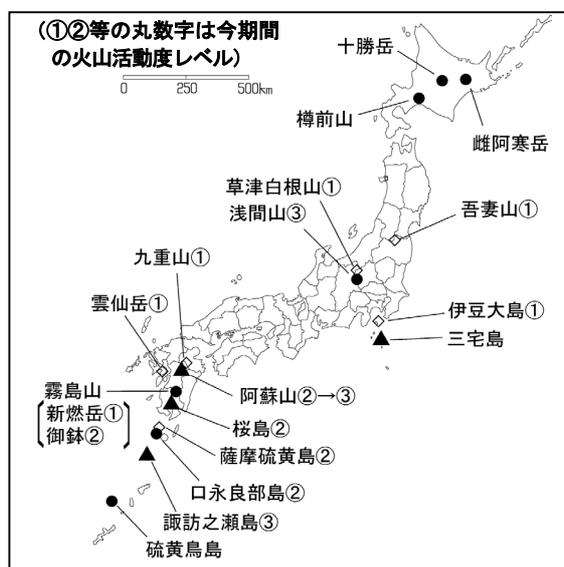


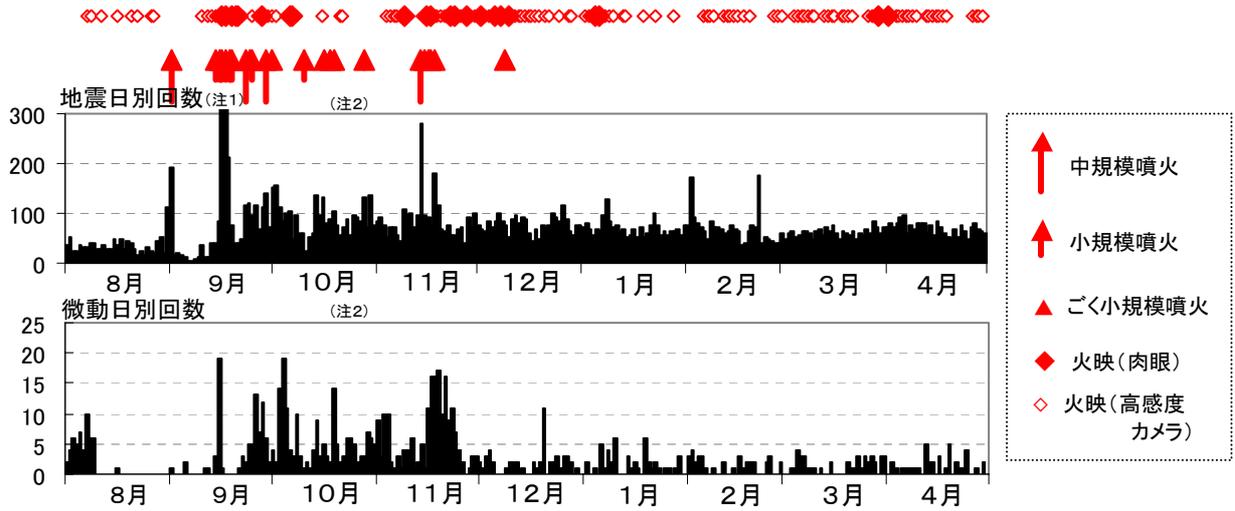
図 1 今回記事を掲載した火山

| 火山名 | 平成16年(2004年) | | | | | | | | | | | | 平成17年(2005) | | | |
|---------|--------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|-------------|---|---|---|
| | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | | | | |
| 雌阿寒岳 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十勝岳 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 樽前山 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 草津白根山 | ● | | | | | | | | | | | | | | | |
| 浅間山 | ● | ● | ● | ● | ● | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 富士山 | | ● | | | | | | | | | | | | | | |
| 伊豆東部火山群 | ● | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伊豆大島 | | ● | ● | | | | | | | | | | | | | |
| 三宅島 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ▲ | ▲ | ● | ● | ● | ● | ▲ | | | |
| 伊豆鳥島 | | | ● | ● | | | | | | | | | | ● | | |
| 西之島 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硫黄島 | | ● | | | | | | | | | | | | | | |
| 福徳岡ノ場 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 阿蘇山 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ▲ |
| 霧島山 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 桜島 | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| 薩摩硫黄島 | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| 口永良部島 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 諏訪之瀬島 | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ |
| 硫黄島 | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

表 1 過去 1 年間に活動があった火山

| 火山名 | 平成16年(2004年) | | | | | | | | | | | | 平成17年(2005) | | | |
|----------|--------------|----|-------|----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|-------------|---|-----|---|
| | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | | | | |
| 吾妻山 | | | | | | | | | | | | | ① | ① | ① | ① |
| 草津白根山 | | | | | | | | | | | | | ① | ① | ① | ① |
| 浅間山 | ② | ② | ②→①→② | ② | ②→③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ | ③ |
| 伊豆大島 | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 九重山 | | | | | | | | | | | | | ① | ① | ① | ① |
| 阿蘇山 | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ②→③ | ② |
| 雲仙岳 | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① | ① |
| 霧島山(新燃岳) | | | | | | | | | | | | | ① | ① | ① | ① |
| (御鉢) | | | | | | | | | | | | | ② | ② | ② | ② |
| 桜島 | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② | ② |
| 薩摩硫黄島 | | | | | | | | | | | | | ② | ② | ② | ② |
| 口永良部島 | | | | | | | | | | | | | ② | ② | ② | ② |
| 諏訪之瀬島 | | | | | | | | | | | | | ③ | ③ | ③ | ③ |

表 2 過去 1 年間の各火山の火山活動度レベル



(注1) 9月16日の地震回数は1406回、17日は同624回。
 (注2) 10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図2 浅間山 2004年8月～2005年4月の噴火、火映、地震及び微動の日別発生状況

各火山の活動解説

火山名の後の〔噴火・爆発・噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等〕は、掲載した理由となった火山現象を示す。

● 雌阿寒岳〔熱〕

ポンマチネシリ 96-1 火口は、噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

● 十勝岳〔噴煙・熱〕

62-2 火口は、噴煙活動の活発な状態が続き、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる観測では、噴煙は白色で高さは概ね火口縁上 200m で推移した。地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

● 樽前山〔熱〕

A 火口及び B 噴気孔群は、噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。地震及び微動の発生状況、地殻変動の状況等に特に変化はなかった。

◇ 吾妻山

火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 草津白根山

火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなかった。

● 浅間山〔噴煙・火映・火山ガス・地震・微動〕

微弱な火映が頻繁に観測された。火山活動度レベルは 3（山頂で小～中噴火が発生する可能性）であった。

期間中、噴火は観測されなかった。山頂火口からは、白色噴煙が連続的に噴出し、最高で火口縁上約 900m まで上がった。また、火口内の熱的な状態が高いことを反映して、微弱な火映が山麓の高感度カメラ²⁾でほぼ連日観測され、2 日夜には軽井沢測候所（火口の南約 8 km）から肉眼でも観測された（図 2）。

27 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は日量約 800 トンで前期間（日量 2, 300 ～ 4, 900 トン）に比べ少ない状態であった。27 日に上空から行った観測³⁾によれば、火口

底には昨年 9 月の噴火活動に伴い噴出したとみられる直径約 150m の溶岩があり、その中心にはその後の爆発的噴火で吹き飛ばされたとみられるくぼみが確認された。また、くぼみの中心には数カ所の噴気孔が確認された。火口底の深さや溶岩の大きさは、昨年 10 月の観測以降大きな変化はみられていない。

火山性地震は依然としてやや多い状態が続き、1 日あたり 54～95 回で推移した。震源は火口直下の深さ約 1～3 km で、特段の変化はなかった。火山性微動もやや多い状態が続き、1 日あたり 0～5 回で推移した（図 2）。

傾斜計及び G P S による地殻変動観測、光波測距観測では特に顕著な変化はなかった。

- 2) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が山麓に設置。
- 3) 長野県消防防災ヘリコプターより、気象庁と東京大学地震研究所が共同で実施。

◇ 伊豆大島

火山活動度レベルは 1（静穏な火山活動）であった。

地震活動は静穏で、地殻変動等のその他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

▲ 三宅島 [噴火・降灰・噴煙・火山ガス・熱・地震]

多量の二酸化硫黄の放出が続いた。12 日にごく小規模な噴火が発生した。

12 日 04 時 45 分に空振を伴う低周波地震が発生し、三宅村神着、三宅村坪田で震度 1 が観測された。地震発生時は天候が悪く噴煙の状況は確認できなかったが、12 日午前中に三宅島測候所が行った現地調査により火口の南西約 4 km 付近の狭い範囲でごく微量の降灰が確認されたことから、噴火の発生が確認された。噴火時刻は、低周波地震の発生した 04 時 45 分頃と推定される。山麓で降灰が観測される程度の噴火が発生したのは昨年 12 月 9 日以来であった。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の高さの最高は火口縁上約 1,000m であった（前期間の最高は火口縁上約 1,000m）。

上空からの観測⁴⁾では、噴煙活動に大きな変化はみられず、山頂火口周辺及び火口内の状況も大きな変化はみられなかった。火山ガスの観測では、二酸化硫黄の放出量は日量 3,300～6,900 トンと依然として多い状態であった（図 3）。赤外熱映像装置⁵⁾による観測では、火口内の最高温度は 110℃ で大きな変化はなかった。また、全磁力の連続観測では特に変化はみられず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

地震活動は、上記の噴火を伴う低周波地震のほ

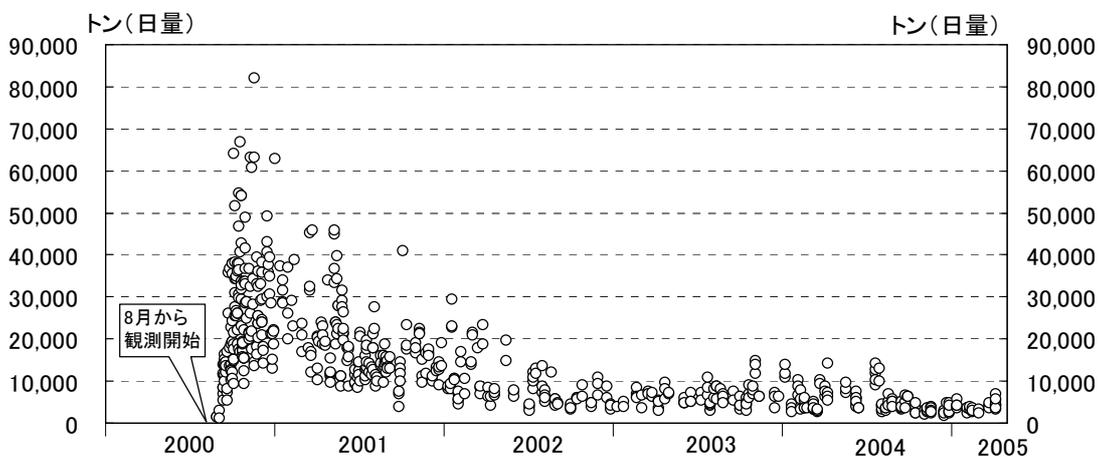


図 3 三宅島 二酸化硫黄の放出量（日量に換算）（2000 年～2005 年 4 月）
2002 年秋以降、日量 3 千～1 万トン程度で横ばい傾向を示していたが、
2004 年秋以降は、日量 2 千～5 千トン程度とやや少なくなっている。

か、3日、11日及び20日に地震が一時的に増加し、日回数はそれぞれ111回、63回、37回であった。その他の日は少ない状態であった。3日は17～20時台に一時的に増加し、そのうち20時32分に観測された低周波地震では三宅村神着で震度1が観測された。11日は17時台に一時的に増加した。20日は12時台に一時的に増加し、そのうち12時50分に観測された低周波地震では三宅村神着で震度1が観測された。これらの地震活動では、天候が悪く噴煙の状況は不明であったが、その他の観測データに特に変化はみられず、地震発生後に行った現地調査でも降灰等は確認されなかった。

G P S 観測では地殻変動の傾向に変化はみられなかった。

- 4) 5日に海上自衛隊の協力により気象庁が実施。
- 5) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

◇ 九重山

火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）であった。

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

▲ 阿蘇山 [噴火・降灰・熱・土砂噴出・微動・地震]

14日にごく小規模な噴火が発生した。同日火山活動度レベルを2（やや活発な火山活動）から3（小規模噴火の可能性）に変更した。

14日09時頃に、阿蘇市山上事務所から、山上広場でごく少量の降灰があったとの通報があった。その直後及び同日午後阿蘇山測候所（以下、測候所）が行った現地観測によると、降灰が主に中岳第一火口（以下、火口）の南側と北東側の火口中心から約700m付近まで分布しているのが確認された（図4(a)）。また11時頃には火口北側でごく少量の火山灰が降っているのが確認された。福岡管区気象台は、火山活動が活発化し火口周辺では注意が必要と判断し、火山活動度レベルを2（やや活発な火山活動）から3（小規模噴火の可能性）に変更した。噴火が観測されたのは、昨年1月14日に大規模な土砂噴出が発生し、山腹で降灰が確認されて以来であった。

14日20時41分に規模の大きな土砂噴出を伴うと推定される火山性微動が観測された。測候所が翌15日に行った現地観測によると、火口内の

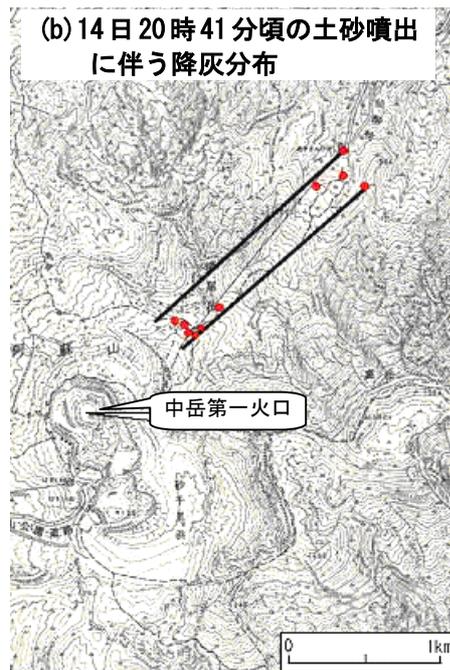
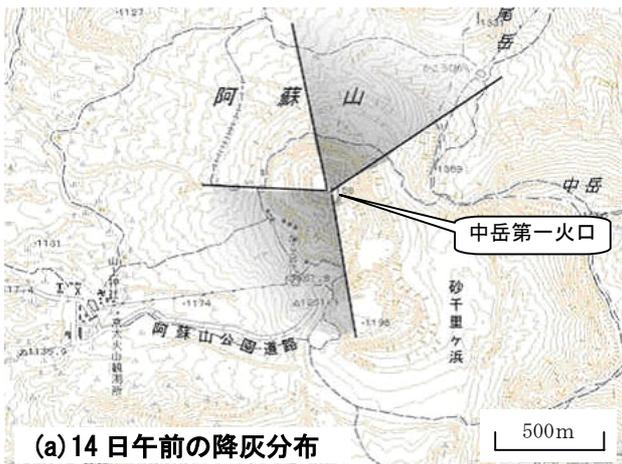


図4 阿蘇山 14日に発生したごく小規模な噴火に伴う降灰分布

(a) 14日午前の降灰分布

(b) 14日20時41分頃の土砂噴出に伴う降灰分布
 (●：降灰確認場所。実線：降灰分布域の境界線。)

地図は国土地理院発行2万5千分の1地形図「阿蘇山」を引用

湯だまり周辺及び火口壁北側から東側の一部に黒っぽい土砂が付着しているのが確認され、14日20時41分頃にごく小規模な噴火が発生したと推定された。同15日に行った上空からの観測⁶⁾では、火口内や火口周辺で新たな熱異常は確認されず、また火口外に新たな火山灰は確認されなかったが、19日に測候所が行った現地観測では火口から北東側約2kmの仙酔峡付近まで火山灰が付着しているのが確認され（図4(b)）、14日夜のごく小規模な噴火によるものと推定された。

火口では、湯だまり⁷⁾の色は15日に灰色から黒灰色に変色し、湯だまり量は8日の観測で約3割から約2割に減少した。湯だまりの表面温度⁸⁾は66～78℃で依然として高い状態であった（前期間は68～77℃）。火口壁の温度⁸⁾の最高は18日に観測された104℃であった（前期間は3月16日に観測された114℃）。湯だまりの中央部と北側で高さ約5m、その他数ヶ所で高さ2～3mの土砂噴出が観測された。

噴煙の状況は、今期間を通じて白色で、噴煙高度の最高は火口縁上約500mと通常と比べ変化はなかった。

16日01時28分から火山性連続微動が観測され期間を通して継続し、28日08時頃から振幅がやや大きくなった。孤立型微動は、1日当たり83～207回発生し、月回数は4,743回と前期間（2,260回）より増加し、やや多い状態であった。火山性地震は、A型地震が56回（前期間は88回）、B型地震が809回発生し（前期間は1,024回）、B型地震は引き続きやや多い状態であったが、20日以降は少なくなった。

G P Sによる地殻変動観測では火山活動に起因する変化はみられなかった。

6) 国土交通省九州地方整備局の協力により、気象庁が実施。

7) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

8) 赤外放射温度計による。赤外放射温度計は物体が放射

する赤外線を感知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

◇ 雲仙岳

火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）であった。

地震活動、噴煙活動ともに静穏で、地殻変動等その他の観測データにも異常な変化はなく、火山活動は落ち着いた状態が続いた。

● 霧島山 [噴気]

新燃岳の火山活動度レベルは1（静穏な火山活動）、御鉢の火山活動度レベルは2（やや活発な火山活動）であった。

御鉢火口内で2003年12月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、監視カメラで火口縁上50～200mまで上がる噴気が時々観測された。

新燃岳付近及び御鉢付近の地震活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。

G P Sによる地殻変動観測では火山活動に起因する変化はみられなかった。

▲ 桜島 [噴火・地震・地殻変動]

火山活動度レベルは2（比較的静穏な噴火活動）であった。

期間中、ごく小規模な噴火は発生したが、爆発的噴火等¹⁾は観測されなかった（爆発的噴火等¹⁾は前期間もなし）。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

火山性地震は総じて少ない状態にあるが、A型地震の発生はやや多い状態が続いており、今期間は17回発生した（前期間は13回）。A型地震の震源は、南岳火口の東約1.5kmの海面下3～4km付近、北岳火口北東部約1kmの海面下1～2km付近、南岳火口周辺の海面下0～5km付近等に分布した。

G P Sによる地殻変動観測では、連続観測で、昨年11月頃から本年2月にかけて、山頂を囲む各観測点間の距離の伸びにやや加速する傾向が

みられていたが、前期間から伸びの傾向が緩やかになった。

◇ 薩摩硫黄島

火山活動度レベルは 2（やや活発な火山活動）であった。

今期間は、火山性地震及び微動が時々発生したが、地震活動は概ね低調で、噴煙活動等の観測データにも特段の変化はなかった。

● 口永良部島 [地震・微動・噴気]

火山活動度レベルは 2（やや活発な火山活動）であった。

火山性地震は、月回数が 72 回と前期間（170 回）より減少したものの、引き続きやや多い状態であった。火山性微動は継続時間の短いものが時々発生し、月回数は 23 回であった（前期間は 21 回）。

監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、27 日に、新岳火口の北側の噴気地帯から白色でごく少量の噴気が高さ約 30m に上がっているのが確認された。

福岡管区气象台が 21～26 日に実施した現地観測によると、新岳の噴気活動や火口の状況に大きな変化はみられなかった。

▲ 諏訪之瀬島 [噴火・降灰・微動]

噴火が時々発生した。火山活動度レベルは 3（小規模な噴火が発生）であった。

噴火が 4～6 日、8 日、23 日及び 25～27 日に発生した。爆発的噴火はなかった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所からの報告及び遠望監視カメラ⁹⁾による観測によると、火山灰を含んだ噴煙の最高高度は、25～27 日の火口縁上約 1,000m であった。また、26 日に集落（御岳の南南西約 4 km）で少量の降灰があった。

火山性連続微動が時々観測され、特に 23～27 日に観測されたものは振幅のやや大きなものであった。

9) 御岳の北北東約 25km の中之島に気象庁が設置。

● 硫黄島 [噴煙]

硫黄島の南東約 65km にある沖永良部島の住民から、25 日 17 時 30 分頃、北西方向に噴煙が見えたとの目撃情報があった。

翌 26 日に海上保安庁第十一管区海上保安本部が上空から実施した観測によると、硫黄島の硫黄山火口（北側の火口）及びグスク山火口（中央部の火口）内の噴気孔から白色の噴煙が上がっており、うち硫黄山火口の噴煙は火口縁上の高さ約 500m まで上がっているのが確認された。

気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している震動観測によると、地震活動に特に変化はみられなかった。

海上保安庁によると、硫黄島では昨年 8 月及び 9 月の観測で白色の噴煙が確認されたが、同 11 月の観測では噴煙は確認されなかった。

資料 1 2005 年 4 月の火山情報発表状況

| 火山名 | 情報の種類及び号数 | 発表日時 | 概要 |
|-------|--------------------------------|-------------------|--|
| 浅間山 | 火山観測情報第 94 号 ↓ (1 日 1 回発表) | 1 日 16:00 ↓ | 前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、噴煙・火映・地震・微動・地殻変動の状況・上空からの観測結果（120 号）・火山ガス観測結果（121 号）及び上空の風の予想）。レベルは 3。 |
| | 火山観測情報第 123 号 | 30 日 16:00 | |
| 三宅島 | 火山観測情報第 179 号 ↓ (1 日 2 回発表) | 1 日 09:30 ↓ | 前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。 |
| | 火山観測情報第 201 号 | 12 日 09:30 | |
| | 火山観測情報第 202 号 | 12 日 16:30 | 島内の調査でごく微量の降灰を確認。早朝にごく小規模の噴火が発生した可能性あり。12 日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。 |
| 阿蘇山 | 火山観測情報第 203 号 ↓ (1 日 2 回発表) | 13 日 09:30 ↓ | 前日 15 時～当日 09 時もしくは当日 09～15 時の活動状況、及び上空の風の予想。 |
| | 火山観測情報第 238 号 | 30 日 16:30 | |
| | 火山観測情報第 13 号 | 1 日 11:00 | 火山活動は引き続きやや活発（土砂噴出発生、湯だまりの表面温度高い、地震やや多い）。レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 14 号 | 8 日 11:00 | 火山活動は引き続きやや活発（孤立型微動及び地震やや多い）。レベルは 2。 |
| | 臨時火山情報第 1 号 | 14 日 12:00 | 中岳第一火口周辺で降灰を確認。レベルを 2 から 3 に変更。 |
| | 火山観測情報第 15 号 | 14 日 17:45 | ごく小規模の噴火発生。現地観測結果（降灰の状況、火口内の状況）。レベルは 3。 |
| | 火山観測情報第 16 号 | 15 日 12:20 | 14 日 20 時 41 分に土砂噴出に伴う震動波形を観測。14 日 20 時及び 15 日 10 時の現地観測結果（火口内の状況）。レベルは 3。 |
| | 火山観測情報第 17 号 | 15 日 16:10 | 上空からの観測結果。レベルは 3。 |
| | 火山観測情報第 18 号 | 18 日 11:15 | 16 日未明より連続微動発生。18 日午前の現地観測結果（火口内の状況）。レベルは 3。 |
| 口永良部島 | 火山観測情報第 19 号 | 22 日 11:30 | 火山活動は活発な状態が継続（15 日以降噴火はなし、連続微動継続）。レベルは 3。 |
| | 火山観測情報第 20 号 | 25 日 11:10 | |
| | 火山観測情報第 21 号 | 28 日 11:00 | 火山活動は活発な状態が継続（15 日以降噴火はなし、連続微動継続し振幅やや大きい）。レベルは 3。 |
| 口永良部島 | 火山観測情報第 15 号 | 1 日 14:00 | やや活発な火山活動継続。レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 16 号 | 8 日 14:00 | 火山性地震の発生回数減少。長期的にはやや活発な火山活動が継続。レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 17 号 | 15 日 14:20 | やや活発な火山活動が継続。レベルは 2。 |
| | 火山観測情報第 18 号 | 22 日 14:30 | |

世界の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）4 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

このうち、アナタハン火山（マリアナ諸島）では、6 日に規模の大きな噴火があり噴煙が海拔約 15km まで上がった。キラウエア火山（ハワイ）では海岸に達する溶岩流の流出が継続した。タラン火山（インドネシア）では噴火に伴い数千人の住民が避難をした。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

